

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207496		
法人名	有限会社 まつかさ園		
事業所名	グループホーム まつかさ園		
所在地	秋田県能代市ニツ井町字下野家後95-19		
自己評価作成日	平成22年 11月 27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成22年 12月 18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームの理念に基づき、利用者さん一人ひとりの個性及び自己決定を尊重し、その中で出来る能力を見出し、また出来ない事は助け合い、その人らしさに合わせた生き活きをした生活を送る事が出来るようスタッフ一丸となって支援しているところをアピールします。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中で保育園や児童館に隣接している2ユニットのホームで、理念である「助け合いの心」を地域住民も巻き込んで実践されています。避難訓練や実際の避難でも、地域住民の協力がありスムーズに避難ができており、また、水害を想定し、他施設等と協力し市町村に働き掛け、避難場所は一般市民と違う場所を確保できるなど、市町村の理解・協力も得られています。運営推進会議は二カ月に一度開催されており、活発な意見交換がなされています。スタッフは定着しており、利用者にとって馴染みのスタッフによる、個性性を重視し笑顔と優しさに溢れた自立支援が日常的に行われ、利用者も活き活きと安心して生活できている心温まるホームです。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者、管理者、職員全員で話し合いを行い、地域密着型サービスとして事業所独自の理念を構築している。	会議や内部研修でホームの理念である「助け合いの心」を確認しあい、地域との関係で理念を実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者さんとスタッフが他の施設の行事やボランティアにも積極的に参加し、地域との交流を深めている。	地域や保育園の祭り、地域の草取りへ参加したり、野菜のおすそ分けや膝掛けのプレゼントを頂くなど、日頃から地域の一員として日常的に交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や地域ケア会議等にて認知症高齢者の方のケアのあり方を伝え、地域の人にも活かしてもらえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者さん家族さんにも参加していただき、その中での意見を取り入れ、サービスの質の向上に活かしている。	二か月に一度の開催で、市町村職員、地域包括職員、区長、民生委員、地域住民、家族、利用者、管理者、職員のメンバー構成で、評価や非常災害の対策、選挙について等、多岐に渡り活発な意見交換がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	近隣の人達にも行事等に参加していただけるよう呼び掛けを行い、町の行事にも参加し親密な関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議へ市民福祉課職員の参加があり、災害対策や健康診断の情報提供など得ており、協力関係は構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、勤務する全ての職員が禁止行為を正しく理解し、身体拘束は一切行っていない。	玄関の施錠を含め、身体拘束は一切行われていません。また、職員は、身体拘束について研修等で繰り返し学び、言葉の拘束についても理解されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や内部研修で話し合いの機会を設け、常に虐待等がないよう意識して日常のケアに関わり、虐待防止に努めている。		

グループホーム まつかさ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の研修会に参加し、制度についての理解を深めている。また、制度を利用している利用者さんもおもい後も引き続き安心して利用を継続できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書を使用し、十分な説明を行っている。その際に不安や疑問、意見なども聴くよう取り組んでいる。退居の際も十分な説明を行い納得を得られるよう取り組んでいく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員が決められており、玄関に意見箱を設置している。今のところ意見箱への投書は見られていない。	面会時・利用料の支払い時、手紙でのやり取りにて意見・要望の聞き取りを行い、道路の舗装についてなど大きなことに関しても会議で話し合い、代表者へ伝え、運営に反映されるよう検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、定期的に職員会議を行い、その中で運営やサービス向上の等への効果的な意見があれば取り入れ反映させている。	職員会議で活発な意見交換がなされており、必要な要望等は管理者を通し代表者へ伝え、反映できる仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務に向上心を持てるよう介護福祉士等の資格取得者には資格手当を出す等の条件整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加してもらえるよう声がけし、研修後は復命書の作成を行い、職員会議や内部研修で報告し成果を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、地域ケア会議等に参加し、学んできた事を職員会議で活用し、質の向上に活かしている。		

グループホーム まつかさ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションの中で、不安や要望を見出し、聴いていく機会を設けている。またその中で信頼関係を築き、安心を確保できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に十分な話し合いを行い安心して利用開始ができるよう配慮している。また開始後も意見や要望等に耳を傾けサービスに活かしていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備等、利用者さんの意見や、やり方を尊重し取り入れ、活かしながらお互いに支えあい、気軽に過ごせる雰囲気作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	楽しい事、困った事を家族さんに連絡し、共に支援していく体制に取り組んでいる。また面会や電話等で喜怒哀楽を共にし一緒に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、受診時に昔の思い出の場所を見て回ったり、出先で馴染みの人に会った際、じっくりと話ができるよう支援している。	友人が遊びに来たり一緒に遊びに出掛けたり、かかりつけ医院で顔馴染みの人と交流したり、希望する理美容を活用するなど、関係継続に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役となり、利用者さん一人ひとりが孤立しない様に関わりあえる環境作りに努めている。		

グループホーム まつかさ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても街で会った際など、退居してからの状況等を聴き、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの暮らし方の思いや希望、意向を十分に把握し、その人らしい生活を送れるよう検討し取り組んでいる。	雪が降ると家が心配になる方には一緒に家を見に連れて行ったり、家の柿が気になる方には、自宅の柿もぎを代行したりと、日頃の会話の中から意向を把握し実現に努められています。また、記録も残されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等から得られた情報を活用し、毎日の生活に取り入れ生きがいのある環境作り、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人ひとりの状態を把握しながら、その人の能力に応じて一日の過ごした方を判断しケアにあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の際には十分なアセスメント、家族さんの意見、医師の意見を取り入れ、スタッフ間で十分に話し合ったうえで本人にあった無理のない介護計画を作成している。	6か月の見直しを基本とし、アセスメント・モニタリングも都度行われています。見直しは家族・居室担当者・管理者で話し合い、状態変化のあった際は随時見直しも行われています。個別記録はプランを意識した内容の記載となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の時間を十分に設け、しっかりと記録を行っている。そのうえで日々の記録を認知症介護の実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム まつかさ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、市役所職員、地域住民との交流を図っている。また地域のボランティアにも積極的に参加し地域資源を活かした暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さん一人ひとりに係り付け医を持ち、受診時に特変あった場合は速やかに家族さんへ連絡を行い、今後の対応について話し合い納得を得られたうえで適切な医療が受けられるよう支援している。	それぞれのかかりつけ医・歯科医・薬局を継続支援されています。管理者の他、職員にも看護師がおり、看護師を中心に医療機関との連携を図ることで、いつでも相談できる体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師2名との24時間連絡体制を整え、有事の際にも迅速な対応が出来るよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに家族さんへ連絡を行っている。また入院先とも情報交換がスムーズに行くように情報を整えており、出来るだけ早く治療、退院が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の場合は共感的な態度で接し、利用者さん、家族さんに不安を与える事のないよう事業者側が出来る事を見極め、主治医と連携して支援にあたっている。	ターミナルは現在検討中であり、マニュアル・同意書の整備が進んでいます。今現在は、看護師2名体制で主治医と連携を図りながら、医療行為が必要になるギリギリまでホームで過ごしていただけるよう支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを常備し、事故発生時に迅速な対応ができるよう備えている。またヒヤリ・ハットを活用し事故を未然に防ぐ努力をしている。(リスクマネジメントの確立)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を年に2回を行っている。また他の施設と水害対策の検討会を開き、協力の態勢を整えている。また地域住民にも参加していただいている。	年二回の避難訓練には地域住民の参加もあり、実際の近隣の火事の際は住民の協力を得て近くの社協へ避難できています。水害については業界にて協力体制があり、過去の経験を活かし、避難場所を一般市民と分けた場所に確保を実現されたりと優れた働きかけが行われています。	

グループホーム まつかさ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員各自が言葉使いに十分に注意し、利用者さんの誇り、プライバシーを傷付けないよう配慮している。記録、個人情報の取り扱い管理も徹底しており広報に関しても各家族に写真等の掲載同意を取ったうえで発行している。	「だめ、待って」などの言葉の拘束を口にせず、ロールプレイで体験しながら、一人ひとりの人格を尊重した対応をされています。業務は二の次、利用者に寄り添うことを一番に考え、支援されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動だけでなく、表情からも思いや希望を表わせる事が出来るよう接していき、自己決定ができるような支援に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、家事手伝い、入浴時間、レクリエーション等、利用者さん一人ひとりのペース、希望に合わせて過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出、入浴時は本人の希望に沿った身だしなみを取り入れている。理容、美容も利用者さん一人ひとりの希望するお店に行ってもらい、また外出困難な利用者さんには理容店側に直接来ていただき散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さん一人ひとりの希望、好みを取り入れ食事メニューの作成にあたっている。食事の準備は職員と利用者さんが一緒に盛り付けや野菜切り、配膳を行っている。	利用者も一緒に買い出し、下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳を行い、職員は利用者と同じ食事を摂りながら、偏食や食べこぼし等の支援をさりげなく行っています。カロリーは地域の栄養士へ確認して頂き、栄養バランスの摂れた食事の提供がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平成20年度より栄養士から指導を受け、カロリー計算、栄養バランスに配慮しながらメニューを作成している。水分補給に関しては入浴後やレクリエーションの合間にも提供し、必要量を摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声がけ、誘導、介助にて口腔ケアを行っている。口腔内に異常が見られた場合は速やかに歯科受診を行っている。就寝時にはスタッフ管理で義歯洗浄剤を使用する利用者さんもおられる。		

グループホーム まつかさ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さん一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導を行い、オムツ、尿取りパッド等の使用を減らしている。また、誘導の際には利用者さんのプライドを傷付けないよう配慮している。	排尿パターンを把握することで紙パンツが布パンツに変わった人が約半数という優れた取り組みがなされています。布パンツの使用により、精神的・経済的負担軽減を意識されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、献立にヨーグルトなどの乳製品を取り入れ、定期的な散歩、体操を行っている。また水分補給の際もココア等、便通を良くする飲み物を取り入れ工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者さん個々の希望やタイミングに合わせて入浴時間を提供しており、入浴前に体調確認、バイタルチェックを行い安心して無理のない入浴ができるように支援している。	入浴前はバイタルチェックが行われ、回数・時間帯は希望に応じて、毎日でも、夕方でも入浴可能です。自立度が高ければ夜間も検討可能です。入浴できない方へは、足浴・手浴・清拭の対応があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さん一人ひとりの希望や生活習慣にそった時間で休息、就寝していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、薬の処方後は申し送りノート、受診ノートに薬の目的などを記入し職員全員が目を通している。また服薬後の症状の変化にも注意して記録を行っている。その他、ピルブックも常備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん一人ひとりに合わせた役割分担を行っており、大正琴や生け花、塗り絵等、個人の趣味を活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	職員の付き添いにて近くの床屋や保育園に出かけたり、車で買い物に出かける等、本人の希望にそって外出支援を行っている。	食材の買い出し、個別の買い物やドライブ、自宅への訪問、年間行事での外出など、日常的な外出支援が行われています。	



グループホーム まつかさ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者さんが数名おり、買い物の際は声がけし、希望の際は欲しい物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さん本人の希望、またはスタッフの働きかけにより家族や親戚等に電話をかけていただいている。年賀状の作成もスタッフの支援で行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間などの共有の空間に季節感が持てるような飾り付けを行っている。また不快な臭いなどがなく清掃面にも注意している。	空調は床暖、エアコン、空気清浄機、加湿器で湿度温度をコントロールし、気になる臭いなど無く、職員の声のトーンも配慮され、快適な生活空間が造られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホーム廊下の隅に長椅子を設置しており、他者と離れて一人になれたり長椅子に座って利用者さん同士で過ごせるようなスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さん本人が実際に使用していた物品を居室に設置して使っていただき居心地良い環境作りに取り組んでいる。亡くなられた夫の写真を持参し毎朝ご飯を備えている利用者さんもおられる。	居室の物は全て持ち込みで、使い慣れた家具、ベッド、テレビ等が設置され、写真の掲示などもあり、安心して過ごせる配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や廊下、トイレに手すりを設置し、自立して安全な歩行が出来るよう配慮している。また浴室、脱衣所、浴槽内にも手すりを設置し自立を支援している。		